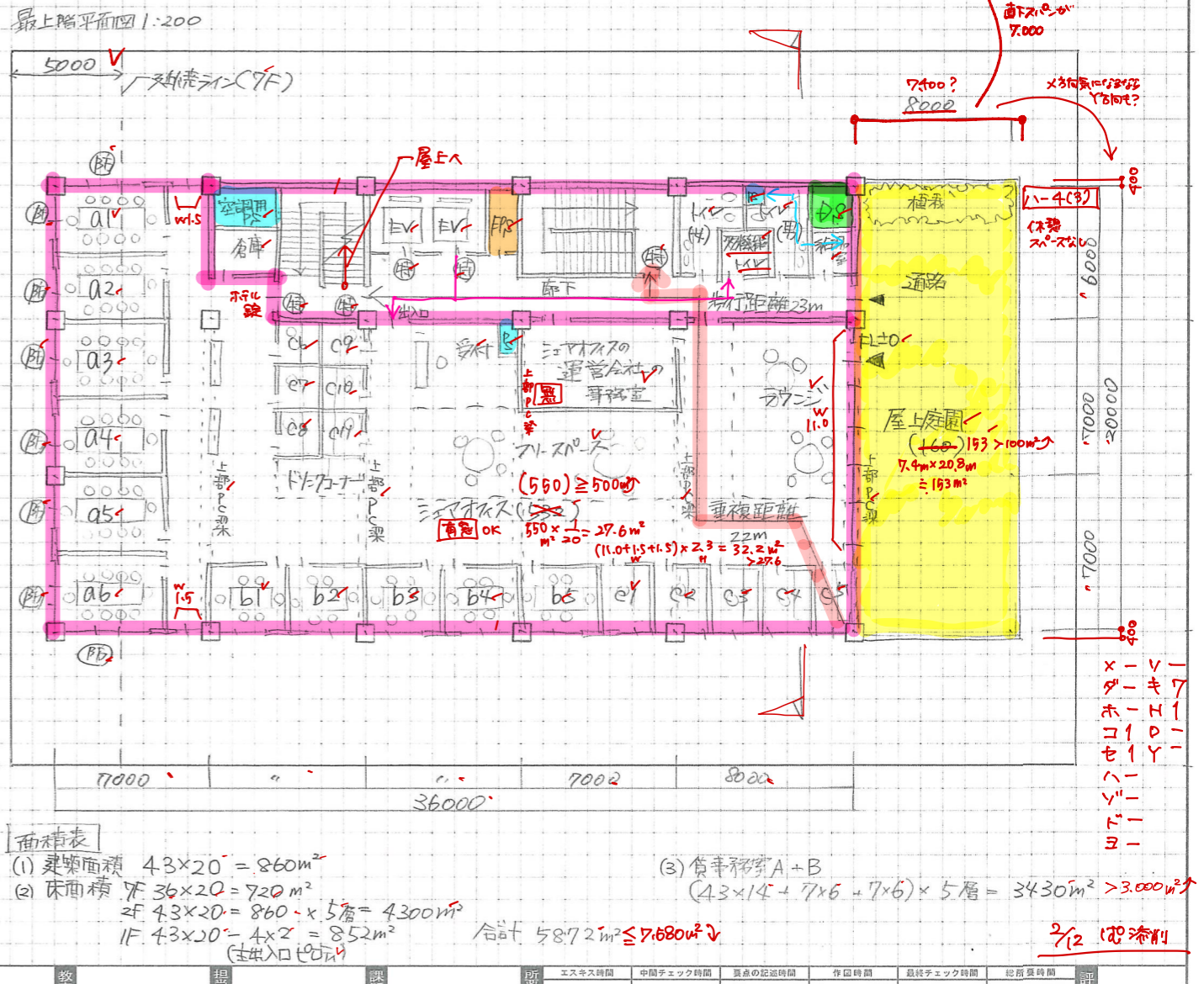
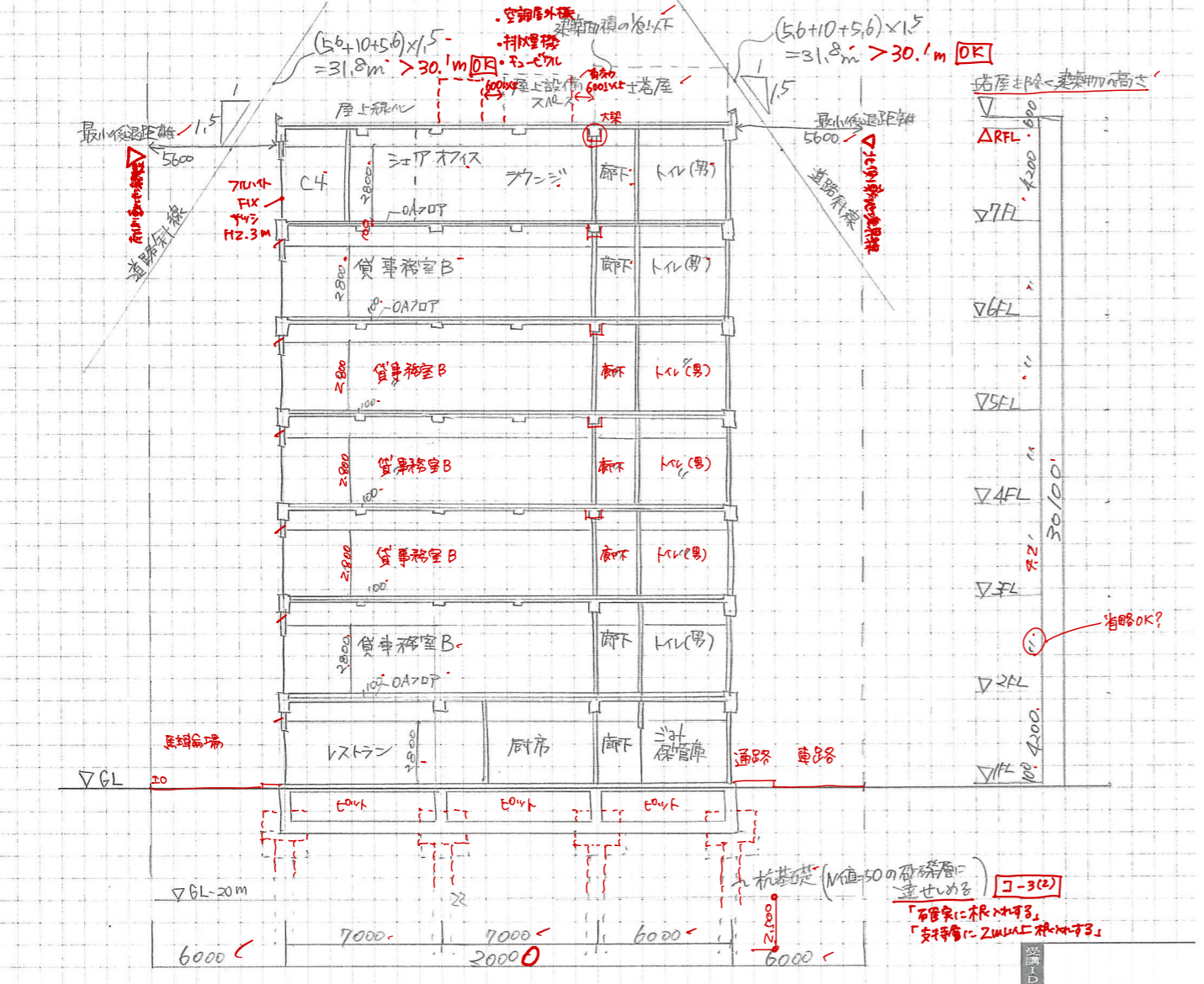
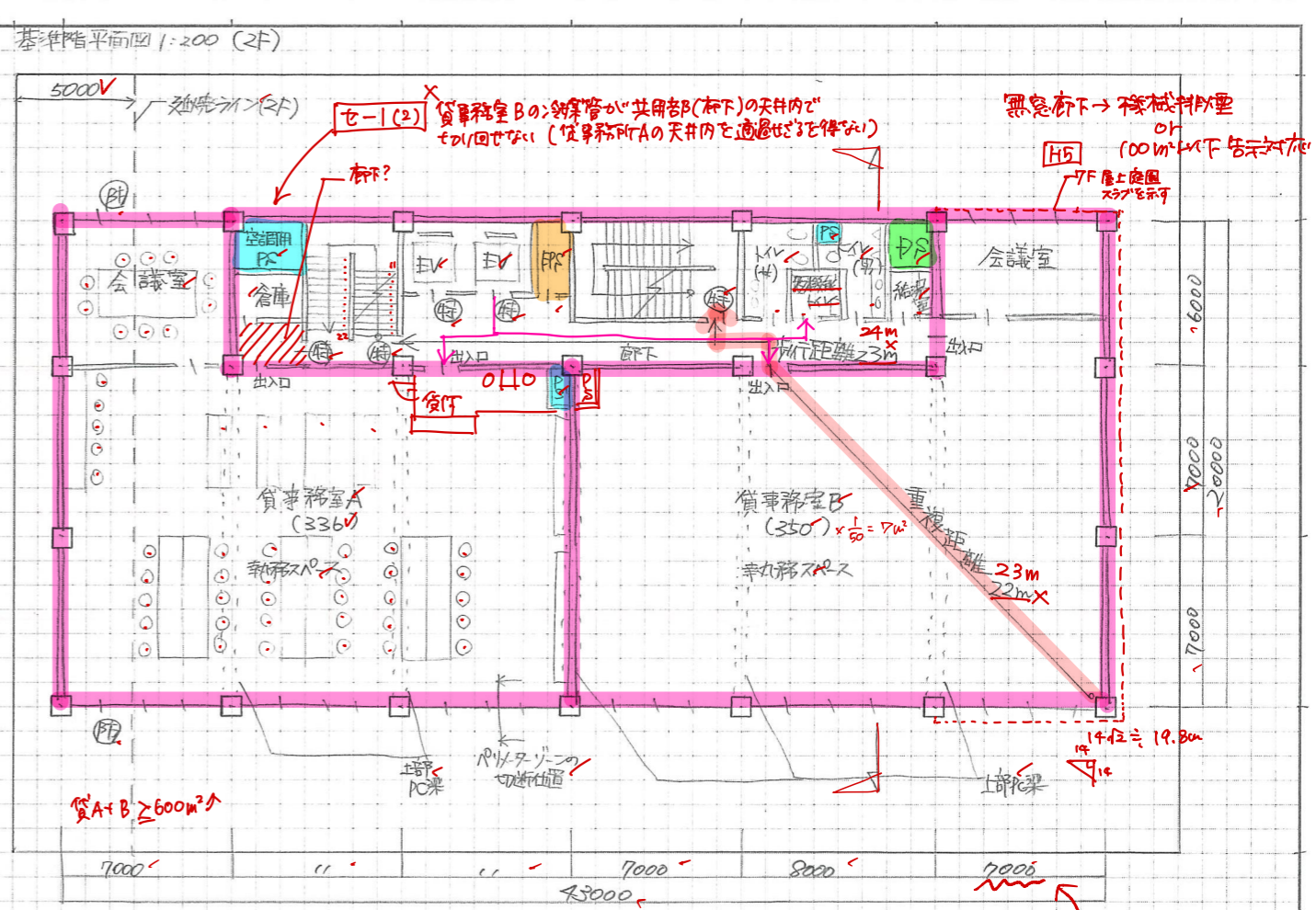
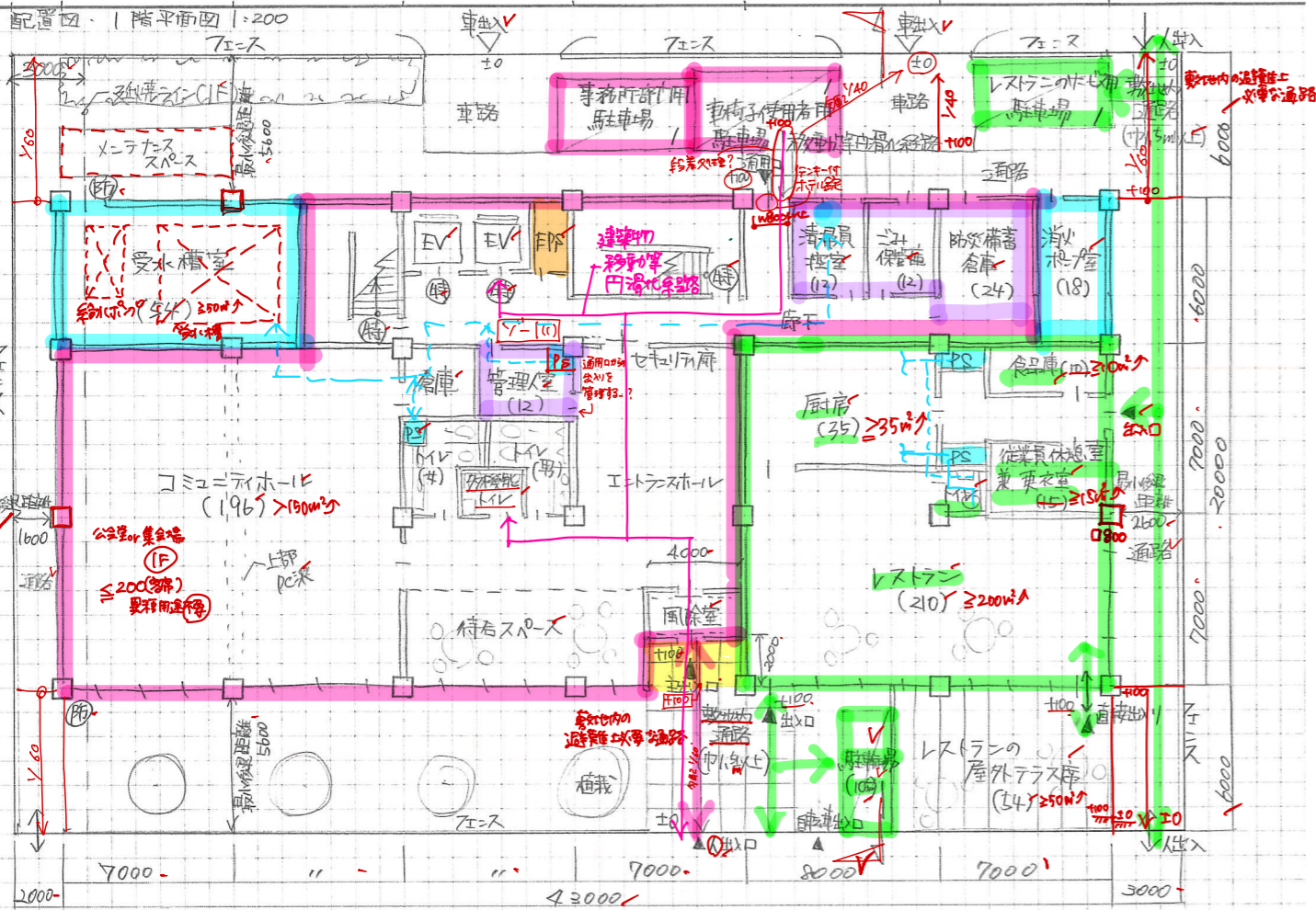


柱10
寸18
間28
寸60
寸70
寸95
外99
寸238
寸24

(この方眼用紙の1目盛は、5ミリメートルです)



面積表

(1) 建築面積	43 x 20 = 860m ²
(2) 床面積	2F 43 x 20 = 860m ² 1F 43 x 20 = 852m ²
(3) 貸事務所A+B	(43 x 14 + 7 x 6 + 7 x 6) x 5層 = 3430m ² > 3000m ²
合計	5872m ² ≦ 7680m ²

要求図面では表せない建築物の計画上の要点等について、次の(1)~(7)を具体的に記述又は図示する。

(1) 基準階(貸事務室A、貸事務室B及び共用部)について、次の①、②の観点から配慮したこと △平段を追加

①収益性(レントラブル比に関する記述は除く。)や可変性 △収益性、テナント計画の自由度が高まり、利用者の要望に柔軟に対応
 収益性に配慮して、**貸事務室は** 整齊とし、使用勝手よい計画とした。
 可変性に配慮して、**床はOAフロア、天井はシステム天井とし、レイアウトを変更しやすい計画とした。**

②快適性やテナント及び利用者の多様性 △三方を開口とすることで
 快適性に配慮し、**貸事務室は一年を通して安定した採光を確保できる南向きとした。**
 テナント及び利用者の多様性を考慮して、**段差を設けず計画とした。** △誰でも移動しやすい

(2) 最上階(シェアオフィス、共用部及び屋上庭園)について、収益性や快適性、多様な働き方に対応可能な空間づくりの観点から配慮したこと 部分

収益性を考慮して、**貸室を極力多く確保し、非収益部はコンパクトに計画した。**
 快適性に配慮して、**テラスと屋上庭園は** 視界の広げた東側に配置し、公園への見晴しを得られ、身軽な空間と多様な働き方に対応可能な空間とするため、24時間利用可能とできるように、セキュリティと出入り管理を可能にした。 △無人でも

(3) 採用した構造種別と、その構造種別を採用した理由(無柱空間とするに当たり工夫したこと及び耐震性や経済性等について配慮したことを含む。)

採用した構造種別 (○で囲む。)	木造・鉄骨造・ RC造 ・SRC造・その他()
採用した理由(工夫したこと等)	△理由なし 耐震性、耐久性、耐火性を考慮して、RC造を採用した。 6m8mスパンのベーム構造とすることで、 △経済性に配慮した。 無柱空間とするために、PC梁を採用し、構造上の一体性、剛性、建物全体の軽量化を考慮した。 △相関性? ex) RC造と親和性が高く、長スパンを形成するに有利で、PC梁を採用した。

(4) 貸事務室A及び貸事務室Bに採用した空調方式と、次の①、②の観点から配慮したこと

採用した空調方式	空冷HPマルチ型ITコン + 全熱交換器
①設備スペース(室内機、室外機、配管スペース等)の確保	室内機は 50㎡以内ごとに天井に配置し、均一な空調計画となるよう配慮した。 △全熱交換器を併用することで、外気導入による負荷を削減し、換気効率の向上を図る。 室外機は 屋上にまとめて配置することで、メンテナンスしやすい配慮した。 配管スペースは 空調用PSを各階同位置とすることで、配管が極力短く、維持管理しやすい計画となるよう配慮した。 △貸事務室Bから遠い
②貸事務室A及び貸事務室Bの快適性	快適性に配慮して、 インテリゾーンとロイヤルゾーンをそれぞれ適切な空調する計画とし、 ールドドラフトが生じにくく、 均一な空調計画となるよう考慮した。 △空調ゾーニングを区分し、ex) ロイヤルゾーンにはハイパースタイルの吹出し、インテリゾーンにはハイパースタイルの吹出しと、気流の方向を調整して

(5) 貸事務室A及び貸事務室Bに採用した排煙方式と、その排煙方式を採用した理由及び配慮したこと

排煙方式 (○で囲む。)	自然排煙・ 機械排煙 ・その他()
採用した理由及び配慮したこと	△迅速に排煙 採用した理由及び配慮したこと： 利用者の安全性を考慮し、確実に排煙できる機械排煙とした。 居室の各位置から30m以内ごとに、 排煙装置を設け、安全に適切な排煙計画を行えるものとした。 △会議室と執務スペースの間に仕切壁上部には排煙上有効な開口を設け、仕切られた会議室であっても、室面積の1/50以上の開口を設け、執務スペースと同一の排煙区画を形成するよう計画した。

(6) 省エネルギー及び二酸化炭素排出量削減について、次の①~③の観点から配慮したこと

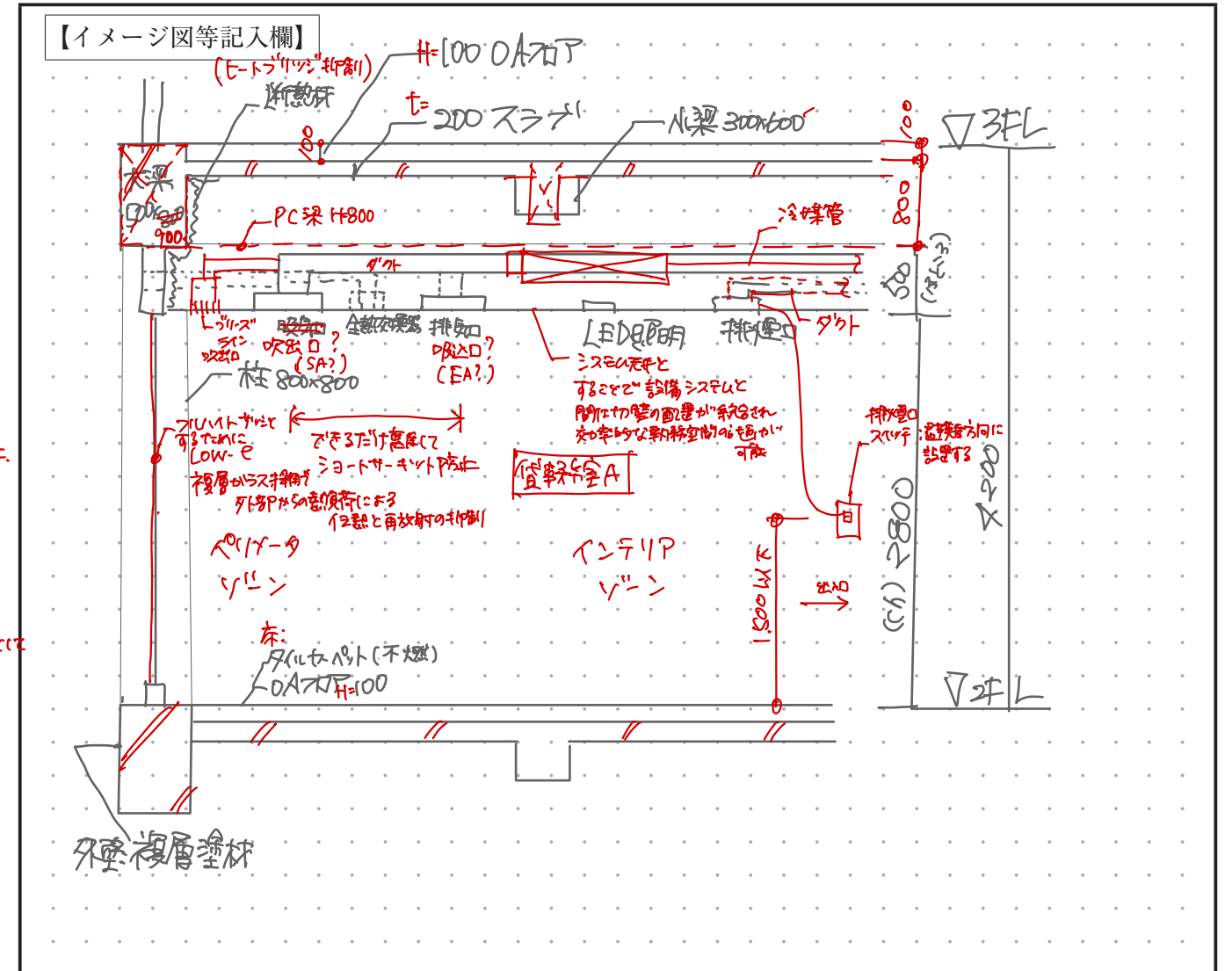
①パッシブ技術 △屋根面の日射による
 屋上緑化することで、**最上階の熱負荷を削減し、** △シェアオフィスの
 シェアオフィスの空調負荷を抑制できる計画とした。

②アクティブ技術 △全館照明の電力使用を削減し、省エネを図り、
 照明器具はLEDを採用し、**ダクトレス照明とすることで、消費電力を削減する計画とした。** ex) 共用部人感センサー付照明

③その他(創エネルギー技術、材料の選定等) △シェアオフィスの日中の照明用電力に充当することで
 太陽光パネルと蓄電池を採用し、**省エネルギーに配慮した。**
 内装材にCLT(不燃材料)を採用し、**CO2削減に配慮した。**

(7) 貸事務室A又は貸事務室Bのペリメーターゾーンの断面詳細が分かる図やイラスト等(縮尺1/50程度、フリーハンドでもよい。)及び次の①~③のポイント(全て【イメージ図等記入欄】に記入する。なお、(1)~(6)に記述した内容やその他工夫した点を合わせて記入してもよい。)

- 建築計画上のポイント(天井高、床高、天井ふところ等の寸法及び内装仕上げ、外装仕上げ等を含む。)
- 構造計画上のポイント(柱、梁、床等の主要な構造部材(見えがかりも含む。))の断面寸法を含む。)
- 設備計画上のポイント(空調、換気、排煙、照明等を含む。)



試験場	受験番号	氏名
R04 解題 2023/3/3	□□ - □□□□□□	□□□□□□□□

2/12 追加